

2021年度

三重大学 人文学部法律経済学科

特殊講義「協同組合論」



<第4回>

「大学と協同組合」

中村 智司／三重大学生生活協同組合 ビジネスプロモーター

第4回（10月25日）：受講60名（対面16名、リモート44名）

大学に、なぜ生協があるのか。その誕生には、当時の大学生の切なる願いや決意が込められている。大学生協は、1898年に同志社大学で設立されたのが始まりである。その後、戦争による軍国主義化が進む中、言論や思想、文化、教育等への統制が厳しくなり、1940年に解散させられた。終戦後、大学は再開されたが食糧難や校舎の喪失で休講が続く、そのような中、多くの大学で「学生大会」が開かれ、そして再び大学生協がつくられ、生協間で協力し物資の獲得がすすめられたのである。戦争と戦後の苦い経験から大学生協は「よりよき生活と平和のために」というスローガンを掲げ、現在もこのスローガンは引き継がれている。

【第4回／講義の要旨】

- ・大学生協は、一つひとつが法人格をもった組織である。三重大学生協は1970年に設立された。また、大学生協どうしが力を合わせて事業を展開するため事業連合という協同組合を組織している。大学生協のない大学では、インターカレッジコープという生協がある。
- ・三重大学生協の設立趣旨には、消費者運動として物価値上げや有害食品を許さないために積極的な活動をすること、福祉厚生施設を利用者としての立場から運営すること、生協が大学生活を充実したものとする運動の推進者となること等が示されている。
- ・当時の大学生協は、大学と対立することも多かったが、大学からの理解と信頼を得ながら、ともに力を合わせて豊かな大学生活を実現していくことを目指していくようになる。
- ・現在の大学生協は、大学構成員がすすめる魅力ある大学づくりに事業を通じて支援し、貢献していくこと、大学の理念と目標の実現に協力し、活力あふれる人材を日本と世界に送り出し、地域社会の活性化に貢献していくことにしている。また、大学生活におけるニーズの変化に応え、商品やサービスの拡大をおこなってきたのである。
- ・生協は組合員の「出資」「利用」「運営」によって成り立っている。そして全国の大学生協は、「協同」「協力」「自立」「参加」の4つを使命として掲げ、事業を行っている。事業で得た剰余は、書籍割引やポイント付与、施設改善などで組合員に還元されている。新入生歓迎活動や学生委員会活動などの活動等は、単に新入生を歓迎するだけの企画でもなく、また、「誰かにやってもらう」活動ではない。「三重大学で生活する皆さん自身がとりくむ」活動であり、「新しい仲間を迎え入れることで生協事業を継続させ、自分たちの大学生活をより良いものにしていくための」活動である。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大による影響が長引く中、全国大学生協連は「大学生アンケート」実施した。アンケートを通じて大学生を取り巻く「暮らしの危機」「学びの危機」「コミュニティの危機」が明確に見えてきた。また、組合員の利用が激減していることから大学生協の経営は、かなり厳しい状況になっている。

第4回講義／受講生のレポート（抜粋）

- ・入学と同時にほぼ無意識に生協へ加入していることで「生協」が意識されにくい状態であることを認識した。大学生協は組合員の運営で成り立つものであり、自分が組合員であることを自覚することが重要だと感じた。
- ・大学生協の運営の仕組みについて初めて学んだので、非常に興味深かったです。学生委員というのも、いることは知っていたけれど自分とへ関わりがなさすぎて全く身近に感じられていないので、大学生協の事業内容や仕組みを知り、恥ずかしいことに新鮮な気持ちになりました。また、お話ししていただいて本当に大学生協の未来を案じていることが伝わってきて、働く人の現場の声が聞けて良かったと思いました。大学に来る度に少しずつ利用はしているものの、これ以降は意識して生協に足を運びたいと思いました。
- ・コロナ禍による影響で売り上げも利益も減少している。普通の株式会社などであれば事業縮小や一部事業の撤退などで帳尻を合わせることは可能だが、生協として目指すところの方針としてその方法は大きく逸れている。その為に私たちの変化した生活に合わせた事業改変をしていくことが必要だと感じた。そしてそれには上述したように出資者でもあり利用者でもある私たち学生もただ、自分たちが組合員であることを自覚するだけでなくそこから行動していくことが必要であると感じた。
- ・今回は私たち学生の多くが加入している大学生協についての講義だった。私たちは入学と同時に生協に入ることは必須だと考えており、課題で取り上げられていたように無意識に加入しているという状態だと考える。そこで、今回のように大学生協は大学を使うみんなが作り上げていくものだということ認識させ、コロナ禍でも大学生協を便利に変化させていこうという意識のターニングポイントが必要だと感じた。そのポイントが自分にとってはこの講義であったので認識することができ良かった。
- ・私たちにとっても大事なものである「繋がり」をサポートして下さっている生協だが、その存続や運営のためにも、組合員としてしっかりとそれらを利用し、声を上げていくことが大事であり、自分もそうしていこうと考えた。大学時代や卒業後の中村さん自身のご経験も聞くことが出来て興味深かった。厳しいであろう状況の中、わたしたちのために沢山のことを考えてくださっている方々の存在やその努力を、今回改めて知ることが出来て良かったと感じている。最後に仰っていた、わたしたちのこれからのキャリアに関わってくるであろう様々な協同組合についても意識していきたい。
- ・コロナ禍でオンライン授業となった今、大学生協の在り方を見直さなければ“何のための生協なの？”と思う人が増えるだろうなと思いました。教科書だけでなく食品も届けてくれるサービスがあれば一人暮らしの人に心強いと思います。翠陵館においてほしい食品のアンケートを学内で見たことがあります、あれがニーズに合わせていっているという事なのかなと思いました。生協にせっかく入っているのならうまく利用して還元を受けていくことが大切だと思いますし、そうすることで三重大大学の一員、組合としての自覚が芽生えるのかなと考えました。
- ・特に印象に残った内容はコロナウイルスの影響による3つの危機です。通常の大学生活とは異なり、一年生の頃は大学にも行けず友達もできず辛い時期がありました。しかし、コロナウイルスの影響で生協の経済状況が厳しい中、様々な工夫をして私たちを助けてくださっていることがわかりました。また、生協を利用することがありますが、ひとこえカードという取り組みをしていることを初めて知るなど、普段利用している三重大生協についての歴史や取り組みを知る良い機会でした。対面授業で大学を利用する際に文房具等が安く購入できるので、積極的に生協店舗の利用を行いたいと感じました。

- ・生協の特徴的な取組であると説明された共済の話や生協への運営の参加方法としてひとこねカードというものがあることさえ知らなかったので学ぶことが出来て良かった。私のようにこういった取組を知らない学生もいると思うし、こういった話を知ってもらって生協をより意識させることができ、よりよい生協を作っていけるのではないかと思います。また大学生協がコロナの影響で厳しい状況に陥っておりその大学生協をよりよくしていくために私たち学生がどうつながっていくかを考えていくことは必要だと思った。
- ・自分の大学生活を振り返って、こんな時、生協に頼れただろうに何も利用しなかった、また、コロナ禍になり食堂も施設もあまり利用しておらずもったいないと感じていたが、今回の講義で自分が加入しているだけで他の人の助けにつながっているというのをすごく実感出来たと同時に、嬉しく感じました。また、規定外の物質が含まれている商品は売らないという決まりがあることを初めて知り、私たちの生活を本当に色々な面で支えてくださっているのだと感じました。現在4年生になり、授業もほとんどないため大学を利用する機会はありませんが、残りの学生生活で売店や食堂をもう少し知りたい、味わいたいと思いました。
- ・大学で普通に学べるという現状に大学生協が大きく関わっていることが分かり、とてもありがたいことだと感じました。また様々な活動の一つひとつが私たちのことを考えてくれている活動であると感じました。これは容易なことではないし、生協ならではの活動だと感じました。また生協は一つひとつが法人であり、フランチャイズではないということはとても驚きました。
- ・大学生協は一つひとつが法人ということにとっても驚いた。大学ごとにどのような違いが具体的にあるのか調べてみたいと今回の講義を通して思った。また、利用によって生まれた剰余は還元されるといったことや、食品添加物基準を満たした食品の販売など学生の生活向上が向上するように運営をしているということから学生中心であると感じるとともに、なにも思わず食堂などを利用するのではなく、もっと学生は主体的に大学生協について考えていく必要があると感じた。
- ・実際にコロナウイルスの影響によって大学へ登校する機会さえ少ない為、大学生協は「教科書を購入することが出来る場所」ほどの認識しかなく、全く身近な存在には感じていませんでした。しかし今回の講義を聞いて、大学生協に加入している私たち学生が大学生協の「主役」であるのに、身近に感じられていないのは大きな危機だなと感じました。私たち学生がもっと大学生協の取り組みや運営の仕組みについて認識すべきだと考えます。
- ・三重大学の生協の運営状況の数字や現状を教えていただいて、経営の厳しさをより現実的に感じました。新型コロナウイルスの流行によってオンラインで講義が開かれることが日常になったため、生協で買い物をするかどうかという問題以前に大学に来る人自体が少ないということを私自身の身の回りでも良く感じます。このことから、講義終盤でもお話がありました。WebやSNSの活用などがこれからの生協にとって、とても重要になると感じました。また、生協についての学習の機会を設けることも大切なかもしれないとも思いました。あまり生協の内容を理解せずにおそらく便利だからという理由だけでとりあえず加入した人は数多くいると思います、私もその一人でした。仕組みを理解したうえで、自分達の生協の利用状況次第で大学での過ごし方に様々な影響があることを、多くの人に意識してもらわなければならないと思います。
- ・今回の授業を通して感じたことは、生協をもっと頻繁に利用しようということだ。生協は、私たちの学生生活になくしてはならない存在であると改めて感じた。また、学生も積極的に運営に関われるのだと感じた。

以上